



## 今月の江戸しぐさ「うかつ謝(あやま)り」

例えば足を踏まれた時に、踏んだ方が謝るのは普通ですが、江戸の町民は踏まれた方もうっかりして避けられなかった自分も悪かったと考え、「こちらこそうかつで」などと応じていました。

何か問題があった場合、自分にも原因があったかもしれないと考える謙虚な心のありかたを教えてください。

職場で問題がおこった場合、職位の高い人はまず自分の指導が行き届いていたか考えてみて下さい。

一般の職員の方は自分が誤った場合でなくても問題が発生する原因を放置していたかどうか考えてみてください。

家庭では、もし旦那が何か悪いことをした場合、自分にも落ち度がなかったか考えてみてください。(無理にでも)

自ら反省する人は成長します。何でも人のせいにする人は成長しないものです。また、問題を人のせいにしてばかりしていると、積み重ねるだけでだんだん陰気な性格になっていきます。

自分にも問題があったかも知れないと考えることによってその問題は自分の心のなかで解決できるものになります。

「うかつ謝り」をおまじないにすると、ストレスがたまりにくく、人生が豊かになります。どうぞご活用を。

※江戸思草は、江戸の町民が良いとされること、悪いとされることなどの生活の規範としていたものです。

6歳までに習得すべき事とされていました。

判断の基準は粋かどうかだったようです。

他の国にない、一般庶民の高度な精神性が、当時日本に来た外国人に驚きをあたえていたことが多数記録されています。